

りおな子ども食堂

1. 子ども食堂は東京の八百屋さんが始めた事業

遡ること10数年前のこと。東京都内の八百屋さんの奥さんが、店の前を通る登下校時の子どもたちの様子から閃いたことです。「何となく元気のない子がいるな」から声をかけ始め、子どもたちのことをもっとよく知りたい、その手段としてご飯を食べてもらおうという発想から生まれた事業です。

あっという間に日本全国に広がりました。静岡県内では東部地区が最も活発で、袋井市は数か所にとどまっています。理想を言えば小学校区単位で子ども食堂があることが必要ではないかと思います。

コロナで苦戦した時期もありましたが、開始から6年が経過しました。

ご支援いただいた多くの方々に改めて深く感謝申し上げます。

2. 寄付と助成金の状況

運営資金は個人や団体からの寄付があり、食材（お米・野菜・調味料）についても企業や団体及び個人から頂くことができています。メニューについては季節の野菜を使ったものになっています。助成金については、静岡県共同募金会と静岡県社会福祉協議会からいただき、主にクリスマス会や正月の特別メニューの費用に充てています。

法人負担はほぼゼロに近い状況です。

3. ボランティアさんの状況

毎回10人前後の方々が参加してくれます。学童の指導員さん、小学校の調理員をやっていた方、中学校の支援級の補助の方等々何らかの形で子どもたちと関わってきた人たちです。最近は社会福祉協議会の紹介で来た方や、大学の卒論の勉強で来たという方などもボランティアとして参加していただきました。

4. 子ども食堂は地域作り！

前年度に「子ども食堂は地域のハブとなりうる」と述べました。子ども食堂という言葉自体に人を引き付ける大きな力があると思います。

一緒にやりませんか？と発信すれば多くの人たちが様々な形（資金・食材・労力）で集まってくれます。コロナ以降、「地域が変わった」と言われます。時代の流れということで仕方のないことかもしれませんが、子ども食堂という場所に多くの物や人が集まります。決して地域が様変わりしたとは一概に言えない状況があります。これからも子どもたちを中心に様々な人たちが自主的に集まれる場所であり続けたいと思います。

（文責：大場保治）